

カリフォルニアの夏はすべてが青春だった

ママス&パパスの大ヒット曲、夢のカリフォルニア(歌:アメリカ)をはじめカリフォルニア・サウンド全11曲を収録。スーパーヒューン。



California DREAMING

カラー作品 アメリカ映画

# カリフォルニア ドリーミング

デニス・クリストファー  
グリニス・オコーナー  
サイモア・カッセル  
ネッド・ウィーン  
ドロシー・トリスタン  
ジョン・カルビン  
タニア・ロバーツ

製作総指揮 ルイス・S・アーコフ  
製作 クリス・ウィティカー  
監督 ジョン・ハンコック  
撮影 ボビー・ビルン/音楽 フレッド・カーリン  
原案・脚本 ネッド・ウィーン(原作・ヘラルド出版刊)

松竹・富士映画共同配給



California  
DREAMING

# カリフォルニア ドリーミング

カラー作品／アメリカ映画



### ＜スタッフ＞

製作・指揮……ルイス・S・アーコフ  
制作……クリス・ウィティカー  
監督……ジョン・ハンコック  
脚本……ネッド・ウィーン  
撮影……ボビー・ビルン  
音楽……フレッド・カーリン  
(サントラ盤) ビクター・レコード

### ＜キャスト＞

T. T……デニス・クリストファー  
コーキー……グリニス・オコーナー  
デューク……サイモア・カッセル  
フェイ……ドロシー・トリスタン  
アール……ネッド・ウィーン

タイトなリズム、しびれるサウンドが  
君の心をゆり動かす

主題曲「夢のカリフォルニア」は、ポップスのエバー・グリーンともいえるママス&パパスの大ヒット曲。これを歌うのが「名前のない馬」やレナウンのCMソング「シンブルライフ」のアメリカ。その他にも、バートン・カミングス、ミシェル・フィリップスらが全篇にわたって、ゴキゲンなカリフォルニア・サウンドをくり広げる。おまけに、ボズ・スキャッグス等のレコードでお馴染みのフレッド・タケツトラがバック・ミュージシャンとくれば音楽ファンは絶対に見逃せない。

監督は、アメリカ映画の新世代を代表するジョン・ハンコック。「ジョーズ2」の演出をケツたことでも有名。主演のTTにはデニス・クリストファー。アメリカ映画の鬼オロバート・アルトマンに注目され、「三人の女」「ウエディング」に出演。いまもつと注目される新人スターである。コーキーには、「ジェレミー」でデビュー以来、数々の青春映画に出演。「アラスチックの中の青春」でジョン・トラボルタの恋人役を演じ、最近作「リトル・モア」で人気急上昇中のグリニス・オコーナー。この映画では、ノビノビとした肢体をいかに発揮、スガスガしいカリフォルニア・ガールを熱演している。

青春のみずみずしさ、はかなさ、愚かさが  
みなぎった現代の青春映画の傑作

シカゴからやってきたTT (デニス・クリス

トファー)は、憧れのカリフォルニアに着いた感激でいっぱいだった。アテなどないけど大丈夫。浜に降りたTTの前で、サーファーたちの赤や青のステインカラーが、巨大な波のアーチを切り抜け白い飛沫とともに滑りおちる。ああカリフォルニア!

ふとしたきっかけでTTは、このビーチでスナックを経営するデュークの店に暮らすことになる。そこで彼の娘コーキー(グリニス・オコーナー)に出逢う。TTはビキニが似合うナウなこのカリフォルニア・ガールに一目惚れだ。だが彼女の方は、どこか田舎っぽく、アイビリーガーを決めこんで、イキがっついていてもズレている奇妙なTTに目もくれない。TTのカリフォルニアでの生活が始まった。最初のうちは誰もTTを相手にしなかった皆んなも、話をしているうちに、ナイーブなほど純真なTTに好感をもつてくる。コーキーもその一人だ。

ある日TTは、浜辺でコーキーに飛びかかり抱きつこうとするが、ドジにも反対にねじふせられてしまう。でもこの事が幸いし、その夜フテているTTにコーキーの方からやさしい言葉をかけ彼を誘う。

まるでむしやぶりつくように抱きつきキスをするTTの愛撫はきこえない。コーキーもまた荒々しく下着の中に手を忍ばせるTTに、やさしさよりも不快を感じ彼の体を離す。TTは思わず手を合わせて折る。  
「神様、どうか彼女のプラをうまくはずせませすように、お願いです!」

カリフォルニアの太陽はサンサンと輝き  
波は喜びの声をあげて打ち寄せる。

全世界の若者たちの憧れの地、カリフォルニア。いまや若者文化のすべてがここから生まれるといっても過言ではない。サーフィン・ビーチバレーをはじめ、ファッション、ミュージックに至るまで、流行の先端を行っている太陽と白砂の地。このカリフォルニアのライフ・スタイルをすべて網羅した待望のフィルムが、この作品だ。ここには若者たちの青春が生きている。恋、友情、初体験。誰もが一度は経験する青春の一ページ……。

この作品こそ、79夏、青春まつただ中の若者たちに贈る青春映画の傑作だ!



7/14(土)より8/3(金)まで話題のロードショー

国電有楽町・朝日新聞社うら  
丸の内松竹 (201) 3720